

## 令和5年度 第1回岡崎市図書館協議会議事録

### 1 日時

令和5年8月7日(月) 午後2時開始、午後4時15分終了

### 2 場所

岡崎市図書館交流プラザ 会議室 101

### 3 出席者

#### (1) 出席委員 (10名)

柴田悦己委員、清松治子委員、平岩ふみよ委員、鹿嶋浩委員、江良友子委員、  
松本隼人委員、山田美代子委員、浦部幹資委員、小澤孝道委員、加藤善士委員

#### (2) 欠席委員 (0名)

#### (3) 説明のため出席した事務局職員

中村社会文化部長、谷端中央図書館長、大村副館長、杉山総務係長、  
天野資料提供サービス係長、上川畑情報サービス係長、鳥田主事

### 4 傍聴者

なし

### 5 次第

#### (1) 社会文化部長あいさつ

中村社会文化部長あいさつ

#### (2) 委員紹介

各委員自己紹介による

#### (3) 会長及び副会長選出

会長：柴田委員、副会長：清松委員を互選

#### (4) 会長あいさつ

柴田会長あいさつ

#### (5) 議事

##### (1) 令和4年度事業報告

(2) 令和5年度事業計画

(3) 報告事項

(6) その他

## 6 議事要旨

(1) 令和4年度事業報告

### 事務局から説明

(会長)

事業報告について、質問等あれば発言いただきたい。

(委員)

2点伺いたい。

まず、議事資料(1)の9ページ(3)に記載の図書館ボランティアの登録人数について、だいたい構わないので男女比を教えてください。

次に、10ページ記載の(4)質の高い図書館運営の 中枢としての図書館の機能強化の中で、回送業務について東岡崎駅の中に返却ポストを設けることができないか。

サラリーマンのかたなど、借りに来るのは現物確認があるのでそれほど苦ではないと思われるが、返すときにまた足を運ばなければならないのは不便であり、借りずにネットショッピングで購入するかというかたがいるかもしれない。東岡崎駅に返却ポストが設置されると非常に便利であるため、将来的に可能かどうか教えてください。

(事務局)

まず1点目、ボランティアの男女比については、男女比という統計をとっていないので、明確に答えられないが、ほぼ8～9割が女性だと思われる。

2点目の東岡崎駅への返却ポストについて、現在具体的な計画はないが、東岡崎駅の周辺整備やりぶらを玄関口とする乙川リバーフロント地区 QURUWA 戦略の更新など、本市が取り組む施策の中で、御意見として伝えていきたい。

(委員)

2点目について、すぐには難しいと思うので、今後そういう方向で動いていただけるとありがたい。

1点目、なぜ男女比について伺ったかという、日本の図書館を見ていると、図書館ボランティアはやはり8～9割女性である。なぜ男性が少ないのか考えると、男性は、まとまって団体で動くということを好まないのではないかと思う。私が以前司書をしていた時も、男性で読み聞かせやブックスタートのボランティアをされているかたは稀だった。いないということはなかったが、どちらかといえば書架整理とか、黙々とひとりのできる作業の方が参加しやすかったのではないかと思う。岡崎市は、「だれもが学び いきがいを持てる 生涯活躍のまち 岡崎」をうたっているので、男性がボランティアに参加しやすいように、ボランティア養成講座も読み聞かせやブックスタートばかりではなくて、書架整理や本の修理など、男性をターゲットとした講座も考えていただきたい。

(事務局)

現状として、書架整理についてだが、LSC(りぶらサポータークラブ)に協力してもらい、気軽に参加できるボランティアとして随時実施している。また、本の修理についても、ボランティア活動をしており、若干男性のメンバーもいる。ただ、活動場所など、現状以上に参加者が増えると作業自体がやりにくくなるということもあり、講師と相談のうえ、今はボランティア養成講座は実施していない。今後メンバーが減ってきたら、あらためて講座として企画していくことになるかと思う。ただ、男性が参加できるものは他にもあると思うので、今後考えていきたい。

(委員)

個別施策の(4)質の高い図書館運営の 専門スタッフの確保育成について、職員の適正配置と研修、適正配置の意味が分からないので、どういうことを指しているのかということと、館内研修ではどのようなことを取り扱っているのか伺いたい。

さらに、(1)生涯学習を支援する図書館サービスの充実の レファレンスサービスの充実について、愛知県立図書館がオンラインで開催するレファレンスサービス研修に参加したとあるが、県が開催するレファレンスサービス研修には2種類か3種類あり、集団での聴講となる集合研修と、20人くらいで実施する連続研修がある。このどちらに参加しているか、また参加された3人というのは正規職員か会計年度任用職員か伺いたい。

(事務局)

まず最初の質問について、職員の適正配置というのはどのような考えに基づいて図書館が運営されているのかという趣旨でのご質問かと思われるので回答する。

現在の中央図書館の体制について、冒頭に社会文化部長からの御挨拶の中で申し上げたとおり、図書の貸出返却など窓口の受付案内は、事業者から提案されたサービスを評価し、業務委託を行っている。それに加え職員のほうは、総務係、情報サービス係、資料提供サービス系の3係体制でサービスを提供している。司書資格を有する職員の配置を人事部門に要請し、また若い職員も多いので、育休の代替についても適正資格を持った職員を配置し、図書館の運営に努めている。

続いて、令和4年度の館内研修の実施内容について回答する。年間2回程あり、4月には課内業務の確認および、コロナ禍でコミュニケーションが取れていないということもあり、コミュニケーション能力向上のための内部的な研修を行った。1月には美術博物館の学芸員を招き、郷土資料のあり方やどういう活用をしていくかといった講義を受けている。

また、レファレンス研修について、実施方法は録画配信だったりライブ配信と録画のハイブリットなど、方法は様々だが Web 研修にも参加している。県立図書館が実施する3種類の研修について、今年度は開催連絡があった2つの研修については2つとも参加する予定である。このうち実際に現地で実施するものについては、正規職員、会計年度任用職員関係なく受講経験がないもの、もしくはその分野の研修にこれまで参加していない者を中心に割り当てている。

(委員)

ブックスタート事業について伺う。令和4年度の実施人数が3,078人、一昨年度も3,000人くらいだったかと思われるが、この中で1歳6か月健診をげんき館で受けられる人はだいたい何人くらいか。

(事務局)

約半数がげんき館になっている。やはりコロナで出控えている状況があり、図書館の来館者が若干少なくなっていた。最近は図書館に来る方が増えている状況である。

(委員)

そうするとだいたい1,500人くらいはげんき館になる。これは岡崎市全体の新生児の中での割合としてどのくらいになるか。

ブックスタートは希望制だが、1歳6か月健診はほとんどの人が受けられる。そこを網羅できれば、ほとんどの子どもがブックスタート事業を入口でしてもらえているということになるのではないかと。このような観点から、ブックスタートの実施割合がどのくらいなのか質問したい。

(事務局)

ほぼ100%に近い形で実施できていると思われる。4か月健診の案内にブックスタートに関する案内をいれ、その案内が届いたかたから随時図書館で受け、それでも受けてないかたは1歳6か月健診でブックスタートを受けてもらうという形でやっている。余程の事情がない限りはブックスタート事業を実施できていると言える。

(委員)

ブックスタートを始めて十数年になると思うが、この岡崎市図書館、こども図書館は貸出者数6万人貸出冊数10万冊レベルで利用されているが、ほぼブックスタートを受けた保護者と子どもが来ているということになるか。それをどのように評価されているか。もうちょっと来てもよいと思われるのか、ブックスタート事業の成果としてこんなにも多く来ているとするのか。

(事務局)

図書館の利用は利用者が貸出証を作成し利用ということになる。ブックスタートを受けられてもカードの作成まで至らないかたも多いため、児童の利用状況と直結していると言えるかはなかなか難しいところがある。

また、ブックスタートの本来の意味でいえば、子どもの読書と関係はするが、図書館の利用促進というよりも子育て支援の側面が強く、岡崎市の子育て支援の一環として実施している。ただブックスタートをやっていることで、子どもにコンスタントに利用されているという印象はある。本館だけではなく、特に地域図書室では15歳以下の利用者数を見ると増えているような状況があるので、ブックスタートの効果も多少出ていると思われる。

(委員)

大変いい活動だと思っている。私も子どもたちを図書館というところで育ててきたこと、孫を見ていると図書館は大事なところだと考えている。ブックスタートの説明で全てのかたが貸出証の交付申請をされる訳ではないということがあったが、そこをもう少し工夫していただくと子どもの活字離れ、活字が好きになる活動に繋がるかと思われる。さらなる工夫を期待する。

(委員)

(1)生涯学習を支援する図書館サービスの充実の 多文化共生社会に対応した多文化サービスの充実について、先日子ども図書室の書架を拝見したところ、外国語資料の表示が以前は外国語というシールだけだったのが、ドイツ語、イタリア語とか各言語のシールになり、使いやすくなったと感じた。

ただ、ある時小学校3年生くらいの子どもから、外国語の本でここに並んでいるよりも少し難しいもの、小説みたいなものはないかと聞かれたことがある。どれほどの利用があるかは分からないが、一般書と絵本以外を利用する世代向けの資料についても検討されてはどうか。

(事務局)

児童書の洋書については、なかなか数がないが、そうした御意見、ニーズについて実際どのようなものがあるか、例えば国際交流協会などに聞きながら蔵書を検討していきたい。

(委員)

まず図書館にお礼を申し上げたい。中央図書館のお休みは水曜だが、他の支所は月曜日休みで、比較的どの曜日もすべて図書が使える、そういった工夫がありありがたいと市民として思う。

それから、新しい本が欲しい時にリクエストをしているが、県内県外の図書館とも連携し、なるべく早く本が借りられる環境を整えていて、出たばかりの本もリクエストすれば結構購入してもらえるので、電話をいただくのも楽しみにしている。夕方の6時以降は空席がないほど結構活用されていて、りぶらが市内の核ではないかと思っている。

その上で2点質問したい。

前任校の岡崎聾学校、聞こえない子の学校で、やはり聞こえないと日本語はなかなか難しく、市内の小中学校には、図書を貸していただけるシステムがあるが、聾学校のほうも皆様の協力で、2年ほど前くらいから参加させてもらっている。事務局から説明があった貸出冊数の実績にはそういったシステムの実績は含まれているか、あくまでそれはサービスなので、冊数の実績には入れていないのか、伺いたい。もし入っていないのであれば入れても良いのではないかと。

学校、特に聾学校は図書の予算が少なかったもので、こういったことで助けていただけるのは本当にありがたく、図書というのは好き嫌いがあるので、こういう形で提供してもらえると子どもたちも新しい分野のものを目にする事ができる。

2点目、読み聞かせについて、この活動も素晴らしいと思っているが、特に聞こえない子へ読み聞かせをするボランティアはあるのか教えていただきたい。

さらに、大学も幼稚園も保育園も学校もだが、そういったかたを派遣してもらえるということはあるのか。あれば、学生が読み聞かせをする際に参考になり、また教員等が読み聞かせをするときの参考にもなると思われる。

(事務局)

最初に御質問いただいた貸出冊数の統計に学校へのセット貸出、授業支援が入っているかということについては、図書館概要 43 ページ 44 ページに記載の最近の推移については含んだ数字となっている。

続いて読み聞かせのボランティアに関して、手話に関する読み聞かせはネイティブサイナーのかたと協力し、回数は少ないが手話と声のおはなし会を年1回やっている。現在ボランティアとも話し合いの中で、もう少し回数を増やしていきたいということで、今年は全2回を予定している。今後も実施回数を増やしていきたいが、ネイティブサイナーのかたによる手話の読み聞かせに意味があるので、そこをどう取組むかが課題となっている。

また、学校での読み聞かせについては、手話ではないが、岡崎市内では各小学校区で読み

聞かせボランティアの活動が盛んである。図書館にご相談いただければそういったボランティアさんを紹介すること、あるいは図書館職員が出向いてというのも可能ではあると思うので、遠慮なく御相談いただきたい。

(委員)

(1)生涯学習を支援する図書館サービスの充実の 電子図書館の推進について、昨年も電子図書館サービスを提供する図書館がかなり多く増えている状況かと思われる。その状況を踏まえ2点伺いたい。

近隣の市町村と併せて広域で電子図書館を作ろうというのが、昨年ぐらいから何件か出ていると思う。そういったことに関しての岡崎市図書館としての検討があるかということと、もう一つ、オーディオブックといものがあり、目の不自由な方々が利用されるのにとっても良いではないかと考えている、それについて検討をしているか伺いたい。

(事務局)

電子図書館の推進について、まず1点目、岡崎市の広域連携に関する考え方について、現在近隣団体と連携する予定はないが、GIGA スクール構想により児童へのタブレット端末の配備などのインフラ環境が整ってきたということもあり、全国規模の広域的な取り組みに関する考え方、議論も出てきているという印象は受けている。ただ三河地域の図書館でこれらに関する具体的な研究が行われているものではないが、先日西尾市で開催した、三河地域の公立図書館による電子図書館に関する研修会へ職員が参加し、各団体の状況等の研究は行っている。

2点目、目の不自由な方向けのサービスについて検討しているかとのことだが、電子図書館サービスの一環として提供各社がやっているサービスもあるが、各自独自性の強いサービスが多いのも事実である。現時点では当館は電子図書館サービスを入れていないため、今後バリアフリーサービスや付随するサービスについても、導入を検討するに当たってメリットの一つとして視点には入れていきたい。

(委員)

愛知県図書館の電子図書館では今年の3月からオーディオブックをいれている。かなり質が良く、NHKのアナウンサーがラジオで朗読するようなものもある。中央図書館もバリアフリーサービスを実際に対面でやっていると思うが、そういったものと同じレベルを電子図書館でやるのではと考えている。対面でバリアフリーサービスを受けるかたに、愛知県図書館の利用登録をすればオーディオブックが利用できることを、案内されてはどうか。愛知県内の方であれば誰でも利用登録ができ、ネット上で手続きが全部できるので、そうしたことも御案内すると、わざわざ中央図書館まで来なくてもオーディオブックで聞けるのではないかと。私も実際聞いて見たが、本は結構長いものであり、1冊読むのに4時間とかかかることもある、あまり長い時間聞くことはできないかと思われるので、家で休みながら聞ければ良いと思う。

(事務局)

まずバリアフリーサービスとしての取り組みについて、日本全国協同で音訳したデータを集め、そこから登録館がダウンロードして提供できるサピエ図書館という既存のサービスがある。

(委員)

それはオンラインで聞くことができるのか。

(事務局)

サピエ図書館の利用には登録が必要だが、岡崎の図書館はサピエ会員に入っているので、図書館を通して申請してもらえばそういったデータをインターネットを通じて自分のパソコンに入れて聞くことができる。またオーディオブックと、サピエ図書館で提供している録音図書は多少違いがあり、障がいの程度や個人の特性によって使い分けて利用してもらえたらと考えている。サピエ図書館で提供している資料は、しおり機能もついていて図や表もどういふものであるという説明が入っている。

(委員)

コンテンツはどのくらいあるのか。

(事務局)

相当ある。文学から実用まで様々あり、また利用者のリクエストも受け付けているので、ない資料のリクエストを受けて音訳して提供するという取組みもやっている。

(委員)

障がいのあるかたは特にオーディオブックみたいなものはいらぬということか。

(事務局)

障がいのあるかたのうち、途中で障がいとなられたかたは、そのような操作も慣れていないので、オーディオブックのほうが聞きやすいというかたもいると思う。オーディオブックもひとつの手立てだと考えている。ただ現状バリアフリーサービスとしては、サピエ図書館という取組みがあるということをお伝えしたい。

(委員)

広域図書館について、このあたりの市は既に電子図書館導入済みのところが多い、残っている大きな市というと豊橋と岡崎と刈谷くらいだと思われるので、愛知県をめぼしいところの3分の1くらい導入されているようだから、もしやるなら早く検討される方がよいかと思う。

(会長)

次の議題もあるので、一旦(1)については切らせていただきたい。それでは次の令和5年度事業計画について御説明いただきたい。

## (2) 令和5年度事業計画

### 事務局から説明

(会長)

事務局からの説明について、質問等あれば発言いただきたい。

(委員)

先ほどからボランティアの話がでており、事業計画にも養成講座ということで組まれているが、このようなボランティア養成講座に応募する年齢層というのがどのようになっているのか伺いたい。  
若いお母さんたちは、今、幼稚園保育園に小さいうちから預けることが主流になってしまい、子どもを育てることも時間をかけない時代だと感じている。私の子どもが小さい時は、学校の読み聞かせ等は仕事をなんとかやりくりしてでも行く、そういった雰囲気があった。でも今はなかなか

かそういうこともないような気がしている。

ボランティアさんたちがずっと広めてきた本を読んで聞かせる、それに参加する、こういうものはずっと残していただきたい。この後の時代がどうなっていくかわからないが、そんなことを感じている。

(事務局)

ボランティア養成講座の参加者について、年齢は具体的には調査していないが、だいたい仕事等がひと段落されたかたが多いように思われる。ちょっと若いなというかたもやはり子育てがひと段落したかなというかたが中心になっていると思う。

(委員)

確かに以前はちょっと子どもの手が離れたぐらいで、何かやれることないかなということでボランティアに来ていただくかたが多かったが、そういうかたはいまや皆無というぐらいである。現状は、仕事を終えてまだ元気だから何かしたいというかたが参加してくれたり、ちょっと何かやりたいということで書架整理に参加してくれている。また、学校読み聞かせの場合はその小学校のお父さんお母さんが多いので、若いかたも多く、また最近は男性のお父さんというのが増えてきたと感じる。前は一人いるかいないかだったのが、何人か参加するようになったので、お父さんたちも仕事の前に読んでいくことができるようになったのではないかと、嬉しく感じているが、ボランティア精神がこれからどう育っていくのか不安もある。

(委員)

別のテーマになるが、ビジネス支援事業についてお話させていただきたい。

私自身が NPO 法人を立ち上げる際にオカビズを利用させてもらったが、実はオカビズというものがあるのもまったく知らず、融資の際には融資の補助がつくなど、こんなにも優遇されるのかと少し驚いた。システム自体を知ったのは銀行から紹介があったからで、こうした支援事業は素晴らしいものなので、もう少しうまく展開して一般のかたにも分かるようにすると使いやすいと思うので、ぜひ検討していただきたい。

(委員)

私は移動図書館あおい号がある時代から教員をしており、あおい号が老朽化ということで来られなくなったタイミングで教育委員会に勤務することになったので、現在の図書館資料が入った青い箱を学校に配るというところに関わらせてもらった。なんとか子どもたちに本を届けようと思ってもらえて大変ありがたく、今でも子どもたちは大変楽しみにしている。

また読み聞かせについても、コロナの間は直接ではなく、放送などでやっていたが、今年に入ったぐらいから、直接顔を見て実施することができるようになってきた。直接読み聞かせができるならとやってもらえるかたも増え、お父さんが参加してくれるということも増えた。子どもも自分では読まなくても読んでもらうのは大好きという子もたくさんいる。

また、図書館には学校教育に御協力いただきしており、先日も小中学校の先生たちの自主研修ということでバックヤードを案内してもらい、大変大好評だったのでお礼を申し上げたい。

2点お願いさせていただきたい。

1点目、先ほど子どもたちはタブレットをもっているという話がでたが、文研出版とポブラ社の関係で一昨年度くらいに、文研出版から話があり、試して無料で子どもたちがタブレットで電子



図書を読めるようにするというサービスを、半年くらい実施した。次の年から有料になり、年間100万以上かかるということで、泣く泣く諦めたということがあった。

もちろん紙の本を読んでほしい気持ちはあるが、最初のとっかかりで子どもたちが気軽に読むことができれば、図書館に足を運んでくれるようなことがあるかと思うと、市内の小中学生がタブレットで電子図書を読めるようにしていただけたら、大変ありがたいと思う。

岡崎市の小中学生の子は全員タブレットを持っているので、どうしてもタブレットにはこれから先触れていく。気を付けたいのは、タブレットに左右されるのではなくて、子どもが自分のために知りたいことを調べたり、自分がやりたいことの道具として使いこなせるようにしたいと思っている。

もうひとつの願いは、残念ながら本市の小中学校の図書館には司書がない。司書教諭の資格を持った教員が図書館を運営しているという状況である。他の仕事をしながら、運営しているので、なかなか手が回らず、教員補助で図書館担当の補助がいるところはまだいいが、何分中学校に先に配置が行われるので、小学校で教員補助の配置がない学校がたくさんある。忙しい中、図書館の外に出てというのは難しいかもしれないが、学校から相談したら見に来てもらえて、学校の図書館担当にアドバイスがもらえるようなシステムができれば大変ありがたいと思っている。

(会長)

要望事項ということでよいか。

(委員)

返事を今いただくとは思っていない。

(会長)

事務局から報告事項について説明いただきたい。

### (3) 報告事項

事務局から説明

(会長)

本日の議事は以上でよろしいか。御意見があるかたは発言いただきたい。(意見なし)  
これで議事及び報告事項は終了とする。